

令和 5 年度第 1 回千代田区障害者支援協議会
相談支援部会

—議 事 録—

日時：令和 5 年 5 月 18 日（木）18：30～20：20

場所：千代田区役所 8 階委員会室

千代田区 障害者福祉課

■開催日時・出席者等

日時	令和5年5月18日（木） 18:30～20:20	
場所	千代田区役所 8階委員会室	
委員	学識経験者	大塚部会長
	千代田区障害者相談員	廣瀬委員、小笠原委員、蒲生委員
	社会福祉団体又は障害者福祉団体の代表者等	大山委員、廣木委員
	事業者	永田委員、的場委員、前田委員
	就労支援関係者	秋元委員
幹事	区職員	清水障害者福祉課長、後藤健康推進課長
事務局	区職員	平澤児童・家庭支援センター発達支援係長 松田障害者福祉課障害者福祉係長 小坂部障害者福祉課総合相談担当係長 林田健康推進課保健相談係長

■議事録

<開会>

○小坂部総合相談担当係長 障害者福祉課の小坂部と申します。本日は事務局として司会進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。はじめに、障害者福祉課清水課長からご挨拶をいただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

○清水幹事 皆様、こんばんは。大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。障害者福祉課長の清水でございます。今年度の相談支援部会では、昨年度に引き続き千代田区における地域生活支援拠点及び重層的な相談支援等についての状況の検証及び課題の抽出、解決に向けた議論を行っていくとともに、新たに精神障害者の地域包括ケアシステムの構築について協議を行いたいと思います。さらに皆様からいただきました議論につきましては、来年 4 月に改定となります千代田区障害者福祉プランにつなげていきたいと思っております。本日は委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 ありがとうございます。本日の会議は、議事録を作成いたします。皆様のご意見を録音させていただきますので、予めご了承ください。それでは、本日配付された資料の確認をしたいと思います。資料 1 は、「千代田区における重層的な相談支援について」と、もう 1 つ「千代田区における地域生活支援拠点等について」がホチキス止めされています。資料 2 は「令和 4 年度 地域生活支援拠点等活動実績（基幹相談）」です。続きまして、資料 3「令和 5 年度 基幹相談 相談支援連絡会 年間スケジュール」、資料 4「事例検討（2 件）」、資料 5「令和 5 年度千代田区障害者支援協議会の開催スケジュール（予定）」となっております。皆様、不足などございませんでしょうか。

次に、本日の委員の出席状況について、確認したいと思います。委員は全 10 名となっております。本日は、的場委員が少し遅れて出席されます。廣瀬委員はウェブで参加しておられます。また区の幹事、児童・家庭支援センターの吉田所長からは欠席のご連絡をいただいております。

続きまして、委員の紹介に移ります。第1回相談支援部会につきましては継続されている委員の方に加えて、新しく1名、委員になられた方がおりますので、自己紹介をお願いできればと思います。それでは、前田委員、よろしくお願いいたします。

○前田委員 千代田区障害者よろず相談 MOFCA を運営している会社の者です。また戻ってまいりました。今後の障害者支援について、皆さんと一緒に話しさせていただく機会をいただけてうれしく思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 ただいま、的場委員が到着されましたので、本日の相談支援部会は委員10名全員が出席となります。

また、事務局で1人、人事異動がございましたので、自己紹介をよろしくお願いいたします。

○松田障害者福祉係長 この4月から、障害者福祉課障害者福祉係長としてまいりました、松田と申します。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 また本日は、障害者支援協議会の運営に関わっていただいております、コンサルティング会社の株式会社コモン計画研究所から2名が出席されておりますので、ご了解いただければと思います。それでは、これ以降、議事に入らせていただきます。ここからは、相談支援部会の部会長であります、大塚部会長に議事進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大塚部会長 皆さん、こんばんは。大塚です。今年度もよろしくお願いいたします。対面での相談支援部会は、今年の1月以来の開催ということになります。先ほど清水課長からお話があったように、今年度の相談支援部会は、次回の第2回相談支援部会から本格的に議論してまいりますけれど、新たに精神障害者の地域包括ケアシステムの構築ということで国が進めていることについても協議していくことを考えておりますので、よろしくお願いいたします。それから本日は、これまで皆様から何度も提案のありました、相談支援の事例の検討で、2事例について協議を行っていただきたいと思います。事例を踏まえて、具体的な相談支援のイメージをもていただく。そして今後の相談支援のあり方について協議することを考えておりますので、よろしくお

願いいたします。できるだけ効率的に会議を進行したいと思いますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。それでは、議事に入ります。議題(1)「令和5年度千代田区の相談支援事業の状況について」、事務局から説明をお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 次第をご覧ください。議題(1)「令和5年度千代田区の相談支援事業の状況について」では項目を3つあげております。順に説明をしたいと思います。はじめに、資料1「千代田区における重層的な相談支援について」と「千代田区における地域生活支援拠点等について」をご覧ください。本日はこちらについては、大きく議論はしませんが、現在、保健所の方で「精神障害者の地域包括ケアシステムの構築」について検討を進める上で、連絡会を設置し課題整理を進めております。その中での重層的な相談支援、地域生活支援拠点等の議論に反映し、こちらのイメージ図を障害者福祉プランに掲載していくことを考えております。その辺りについて、第2回以降の相談支援部会で事務局からイメージ図などを提案していきたいと思っています。今後の相談支援部会で協議いただければと思っています。

続きまして、資料2「令和4年度 地域生活支援拠点等活動実績（基幹相談支援）」をご覧ください。昨年度の3月に障害者支援協議会で2月末時点の実績を提示しましたが、こちらは3月末時点での実績を示したものです。これまでもこの実績に関しましては、えみふると MOFCA のそれぞれの相談体制の違いや、カウントの仕方が違うことから、双方の数値が乖離しておりました。今年度はえみふると MOFCA の基幹相談としての比較・状況が見えるかたちにしていきたいと思っています。

実績について説明いたします。まず「利用人数」です。基幹相談は、えみふるが79人、MOFCAは1,069人という実人数があがっております。実人数の出し方で、乖離がありました。そして「(計画相談)」とありますが、これにつきましては、えみふるでは一般的な相談、基本相談を計画相談で受けているので、MOFCAの人数と比較できるように参照として出しております。計画相談の利用人数に関しては、計画相談を利用している人数ですので、基幹相談の人数とは違います。以下の実績の項目については、基幹相談のみに絞

って、実績を出しています。詳細につきましては、こちらを見ていただくとともに、えみふる、MOFCA から補足していただければと思います。

○的場委員 千代田区立障害者福祉センターえみふるの的場と申します。遅れまして、すみません。実績の説明をさせていただければと思います。まず「基幹相談」ですが、実際に相談というかたちでご利用しいただいた数が 79 名です。そのうち令和 4 年度新しくご相談にいらした方が 11 名になります。それ以外の方は令和 3 年度から継続して相談に来ていただいている方です。「(7 人)」とありますのは、79 名中 7 名の方が千代田区外の方や特に名乗らなかったもので不明の方です。こちらの 7 名につきましては、令和 4 年度に初めてご連絡をいただいた方になりますが、えみふるは区立で区民の方が対象の相談支援ですので、2 名の方は継続しご連絡をいただいています。それ以外の方は単発で相談が終わっています。

「計画相談」については、実際に 3 月末の時点で契約をされている方の人数が 172 名です。新規でご契約をいただいたのは 22 名、区外在住者の人数が「(0 名)」とありますが、グループホームや入所施設の居住地が区外の方が 5 名いらっしゃいます。ただ支給については、千代田区に出していただいているので、えみふるで支援をさせていただいています。先ほど、小坂部係長からもご説明がありましたが、MOFCA と数字の違いがあるということですが、MOFCA の場合、相談以外の件数も計上されていて数字に差が出ているのかなと感じています。えみふるの場合、電話や来所訪問の相談件数で、「居場所」的なかたちで来所された方についてはふらっと御茶ノ水でカウントを取っています。ちなみに令和 4 年度のふらっと御茶ノ水の利用実績につきましては、423 件になります。

「相談者の内訳（利用実人数）」につきましては、実際の利用人数と合計が違うのですが、実数は個人に対して 1 カウントというかたちです。その個人に対して、ご本人とご家族がそれぞれ相談に来ているケースもありますので、そういったものについては 2 カウントとなっています。それで、上の「利用人数」とは差が出ていること、ご承知おきいただければと思います。

「障害種別内訳」や「相談内容内訳」等につきましては、ご覧いただければわかると思います。資料裏面に「グループホーム・短期入所 受け入れ人

数」がありますが、短期入所は 28 名の方にご利用いただきまして、延べ人数としては 1,285 名で、稼働率は 88%でした。虐待での緊急の受け入れはありませんでした。地域生活支援拠点等の整備で、生活の場の体験としての提供において、短期入所の空床利用によってグループホームの体験ができればと思っているのですが、こちらにつきましてはまだ協議中で実績がありません。区と確認をとりまして、決まりましたら、皆さんにも報告させていただければと思っています。

○前田委員 MOFCA の話をしたいと思います。見たとおり、えみふると数がだいぶ違うということで、今、的場さんからお話がありましたけれど、えみふるは事業ごとにカウントを取られているということで、その部分が大きいのかなと思っています。私たちは電話相談を 24 時間受けていますし、そういった件数を延べで出しています。計画相談は別の事業なのでこちらではお出ししていないのですが、だんだん認知度が上がってきまして計画のご相談も増えております。今後はえみふるとカウントの仕方を合わせられるような私たちも考えていて、皆さんが比較するのが難しいというのは、MOFCA が「よろず相談」ということで、実際「すぐに計画に」「すぐにどこかへ」ということではありません。「障害種別内訳」を見ていただきますと、精神疾患や発達障害の方がいらっしゃいます。時期によって不安を強く抱える方がいらして、例えば、「今ちょっと不安なんだけど」というかたちでの電話があり、傾聴して、そのあとのご相談につなげていく支援をしております。

「相談者内訳（利用実人数）」で、ご本人、家族、それから関係機関の数が多くなっておりますが、カウントされないようなご相談でも連携して、保健所やえみふるに連絡して、区全体での支援が可能なようにしています。

「相談形態内訳」を見ていただきますと、来所も多いのですが、電話がかなり多く、コロナ禍で出られない方からも含めて、電話でのご相談が認知されています。「利用人数」で区外の方の人数が 92 人と大変多くなっているのですが、当事業所は千代田区民、在勤・在宅の方の支援を提供しておりまして、92 名のうち半数以上の方は在勤です。

相談の前の相談、「こういうことで、そこに相談してもいいのでしょうか」というかたちの相談も多くございます。一方、認知度が上がったこともあり

まして、どこの事業所でも対応が大変なケースについて、傾聴によって受け止めてゆっくり対応することで、家庭環境や経済的な問題、精神疾患やご病気が複雑に絡み合ったケースを受けることが増えていることを最後にお伝えしたいと思います。

○小坂部総合相談担当係長　ちなみに、新規利用の人数はいかがですか。

○本田（MOFCA）　MOFCA の相談員の本田と申します。よろしくお願いします。令和 4 年度の新規の人数を説明させていただきます。75 名の方から新規でご相談がありました。そのうち、60%は区民の方で、20%の方は在勤の方、それ以外の方が 20%となっています。前田からお伝えしたとおり、新規の方は傾聴から始まるご相談が多いです。診断を受ける前の「受診したほうがいいですか」「今、心が落ち着かないので聞いてもらいたい」という、これから福祉サービスを使いたい方やサービスに関する情報のない方からのご相談が多くございます。最近、すでに福祉サービスをご利用されていて、「もう転居したいから、住まい探しの手伝いをしてもらえませんか」という難病の方からのご相談がありました。福祉サービスに限定したご相談というよりは、そういった幅の広いご相談で、弊社でサービス提供していくというより、つないでいくことが役割になっています。その住まい探しの件は、まだ活用事例が少ないと思うのですが居住支援法人のご案内をし、その方が利用されている介護サービスのケアマネジャーと連携をとるなど、関係者と連携をとらせていただきました。

○小坂部総合相談担当係長　令和 4 年度の新規利用人数については、私どもからも MOFCA の状況の確認ということでリクエストしました。1,069 人という実数が出ていますが、継続利用の方を含めての人数です。1 年間の中で新たに 75 名の方が利用しているということでした。

○大塚部会長　今の事務局のご説明について、ご質問等ありましたら、お願いします。

○永田委員　えみふるはよく行っているのだからわかっているのですが、MOFCA の「よろず相談」というのは具体的にどのような感じなのか、思い描いていました。実際に「よろず相談」を使う時に、特に精神障害の方ですと長く継続すると思います。私の仕事では、6 年、10 年、長い人は 15 年続いています。MOFCA を見ると、人が結構変わっていると感じます。代表者の方が変わっているよ

うにも見えます。そうすると、よろず相談と言った時に、どんなふうにつながっているのかがよく見えません。代表者がやめたとしても、次の方につながって、話が續いてるのでしょうか。

○前田委員 ご質問ありがとうございます。確かに「よろず相談」というのは幅が広くて、どこからどこまでと決められていません。恋愛相談であったり、愚痴のケースもかなりあるのですが、それらをすべて受けとめています。今の「續いていく」というお話ですが、ご利用者さんの傾向として、お電話をかけてくる時期があります。1回、調子がよくなって止まる。また電話がかかってくるというように波があるかたちが多いです。確かにスタッフの変更はありますが、この仕事の範囲がとても広いので、実際、「難しい」と言うスタッフもありました。「いったん家庭の事情でやめた」という経験値の高い人間を採用しております。3名から4名、介護のために「このシフトでは厳しい」と仕事をやめたスタッフがいます。私は代表なのですが、会議には出てきませんでしたが常におりまして、久しぶりに来られたご利用者さんとお会いすることは続けています。いったん離職したスタッフがパートで戻って来るケースも結構あります。できる限り、同じスタッフがいいのですが、福祉全体の傾向として離職と回転が多いことが課題で、MOFCA もその課題を抱えています。来られた方の記録はすべて残していますので、スタッフが必ず記録を読んで、「どんなお話があったのか。どのようなことが起こっているのか」を、例えば相談につながらないケースであっても記録を残して、対応は続けております。やれる限りの対応は続けていこうと考えています。

○大山委員 えみふると数字を並べると、内容が全然違うので並べることに意味があるのかなと思ってしまいます。MOFCA の場合は、今お話に出ましたが、「慣れたな」と思ったら、おやめになっていることが結構ありました。申し訳ないのですが、娘に「MOFCA に行ってみたら」と言っても「なんで行くの?」という感じでした。私は、人数よりも、「ご本人が相談しているのか、親が相談しているのか」ということのほうが知りたいです。えみふるは10年目を過ぎて、だいぶ色々と改革していて、色々な行事もやってくださる。ただ、出てきてくださる方が少ないです。精神障害の方で、どこにも勤めないで家にいる人たちの「居場所」がもっとあればと思います。えみふるのような相

談もいいのですが、居場所ということが私どもの会では、何かあると話題になります。相談の数が多いか少ないかではなく、誰からの相談なのか、またその内容について知りたいです。個人情報のことがあるので、色々なことを聞けませんが、どういう方が MOFCA を利用しているのかわかるといいと思います。

○前田委員 確かに MOFCA がスタートした当初のスタッフは、「MOFCA をまず知ってもらわないと来てもらえない」ということで、イベントを中心に、それも区民の方どなたも来られるものを行っていました。だんだん専門性の高いスタッフが必要になり、入れ替わりが起きました。そこでスタッフがやめるイメージがついたのではないかと思います。

相談は、親御さんが電話をかけてきて、「うちの子を行かせていいかしら？」というケースが多いです。「はい、いらしてください」と先に親御さんと話をしていて、ご本人を連れてきて、ご本人とお話をする。1 回来ていただくと、続けて来てくださるケースも多く、「MOFCA なら行こうかな」と来てくださる方もうれしいことにいらっしゃいます。お子さんとお話をし、そして親御さんと今後どうしていくか、相談をする。必要があれば、他の事業所、保健所、就労支援センターと連携してお話をしながら、どのようにしていくのがよいのかを積み上げていくかたちです。「居場所」としてのご利用はコロナの間はできず、クラスターが出てしまうと困るので、「飲食禁止、区民のみ、相談のある方は予約をしてください」と厳しくしていました。この 5 月 8 日で 5 類になったので飲食を再開しますし、イベントについても人数が入るようなものも再開していきたいと思っています。ぜひいらしてください。年間計画をたてる時に今後の見通しがたたず、なかなか難しかったのですが、これからはものづくりなど、楽しいもの、来やすいものを増やしていく予定です。居場所は空いています。以前はコンビニやカフェでお茶を買って、いらっしゃる方もいましたが、コロナで足が遠のかれてしまったので、また来てくださるようになるといいなと思っています。

○小笠原委員 2 点お願いします。1 点は、資料 2 に「区内基幹相談支援間での情報共有」とありますが、具体的にどんなかたちで情報共有をしていらっしゃるのですか。もう 1 点は、先ほど話に出た「居場所」も必要だと思うのですが、

MOFCA はやはり基幹相談支援というかたちで動いていくので、そこにおける役割はどのようなものなのかをきちんとつかんでいくことが必要なのではないかと思います。役割分担など、それについてのお考えも聞きたいです。

○的場委員 情報共有についてです。えみふるは 10 件という数字をあげさせていただいていますが、こちらは、例えばえみふるの他のサービスを利用されている方が MOFCA に相談にいらして、その中で MOFCA から質問や「このような相談が来ているのですが」とご連絡をいただいている 10 件です。共通の利用者がいる時に両方で連携をして、「じゃあ、この件については、MOFCA さん、お願いします。この件については、えみふるでします」というようなやり取りのケースです。

基幹相談支援の役割については、基本的には MOFCA とえみふるで変わらないと思っています。もちろん、「こういった障害は、こちらのほうが強いです」ということはありますが、基幹相談の役割としては変わらないと思います。基本相談の窓口として、相談を受け止めて、その方の今後を一緒に考えていく中で、もし計画相談が必要となれば、計画相談につなげますけれど、そうでなければ基幹で支援していくのが基本だと考えています。地域の居場所、本人の生きがい、やりがいを一緒に見つけていければと思っています。

えみふるは「相談形態の内訳」で、関係機関を 119 と計上させていただいています。就労支援センターが結構多くご相談いただいている印象です。就労支援センターを利用されている方は、障害福祉サービスを使われていない方が多いので、就労はされているのですが、「他に相談できる場所や居場所、ボランティア活動的なことができないか」などで、「えみふるさん、何かありませんか」と基幹に相談いただくかたちです。本人やご家族からの相談はもちろん、地域の関係機関からも相談がくる体制が必要で、それも基幹相談には求められていると思っています。このあとの事例の報告で、「こういったかたちでつながっているんですよ」と皆様に見えるように、今後できればと考えています。よろしくお願いいたします。

○小笠原委員 扱ったケースに関しての課題分析は、いくつか関係機関が関わっている中でどこが責任をもって解決していくのですか。それはえみふるであった

り、MOFCA であったりするのでしょうか。そこが大事なところではないかと思います。

○的場委員 そうですね。イニシアチブをとっていくのは基幹の役割だと認識しております。その中である程度交通整理といいますか、整えて、「就労支援センター中心で、就労の関係をお願いします」「権利擁護の所になるので、社協さん、中心をお願いします」というかたちで引き継ぐことはあると思いますが、交通整理するのは基幹の役割と認識しています。

○大塚部会長 ありがとうございます。他に質問などありますか。

○清水幹事 先ほど来、居場所事業の話があり、そういった事業が必要で大切であることは認識しておりますが、今回の資料については基幹相談支援に関する数字と考えております。基幹相談のえみふると MOFCA の利用実人数と利用件数が出ておりますが、先ほど説明のあった「カウントの仕方が」ということですが、両方で基本相談を行っておりまして、基幹相談の基本相談の部分、えみふるは計画相談の中で実施しているので、その数字も参考にあげていきます。MOFCA で数字に居場所の件数が含まれるようなご説明をされたかと思いますが、区としては居場所を含まない、あくまでも相談事業の件数と把握しています。令和 4 年度の新規が 75 人、これは区外も含めてですが、6 割程度が区民となりますと、新規で 50 人程度対応していることになります。それ以外は、これまで実施してきた対象者への対応です。居場所に関しては、基幹相談の業務ではないのでここには入っておりませんが、MOFCA の大切な事業として行っているということでございます。

○大塚部会長 ありがとうございます。今、色々な議論が出ていて、「基幹相談」をどう捉えるか。一般的には相談と言うと、計画相談で、サービス等利用計画をつくるので非常に明白なものなのですね。それだけではなくて、計画相談については国から 1 件いくらという報酬として個別給付が出ますので、自主財源として相談支援事業所が行っていき、区が補助する必要がありません。市区町村が出すとすれば、それにプラスで基幹相談のようなものです、お金が出ないので。

千代田区の相談支援をどのように構築していくかについて考える時は、サービス等利用計画を作成して自前でお金をつくって、そして相談支援の

研修を受けた専門家が配置されることが基本となるべきだと思います。その他の相談については、もちろん大切なものではあるけれども、区がどこまで広げていくかを考えないと、機能分担がわからなくなってしまうと思います。

話に出た「利用人数」というのは一般的に考えれば、その下の「相談者内訳」にある「本人」ですね。家族や関係者がつなげたことも含めて、本人の相談が中心なのですから、本人の相談がどれだけあったかが中心になるべきですが、そこが混ざってしまっていて、「利用人数」は「本人」という観点が入っていません。混乱のもとなので、やめたほうがいいのかと思います。「本人」の人数を把握する。

そして「関係機関」の相談をどう捉えるかということですが、関係機関は本人に関わることだけでも、関係機関が「これについては」と相談するのを相談の中に入れていくか、あるいは相談全体の中で分けて考えるか。やはり「本人の相談」を基準に考えないと、「何人、相談を受けた」ということが成り立ちませんので、MOFCA は関係機関が 455 人と半分近くあって、それが 1,069 人という利用人数になっているわけですから、中身を分けながら考えたほうがわかりやすいと考えております。決してむだなことではなく、相談支援事業所としては大切なことです。そのような印象を受けました。これを聞いて、何かありますか。

○廣木委員 相談と、関係者からの問い合わせもここにカウントされているのでしょうか。私たち社会福祉協議会も問い合わせがあって、それに対してお答えすることがあります。

○大塚部会長 問い合わせの内容と相談をどう切り分けるかはなかなか難しいけれど、どうですか。本当は、相談と問い合わせは違いますが。

○的場委員 えみふるは、問い合わせはカウントしていません。あくまで具体的に利用者の方がいらして、その方についてのご相談だけをカウントさせていただいています。

○前田委員 問い合わせは、相談とカウントしていません。問い合わせから話をしているうちに、相談につながるケースはあります。

○大塚部会長 両方ともしていないということで、「相談」ということをどうとるかという。ソーシャルワークで、例えばインテークから始まって、話が来て、それ

についての本人の困り事・悩み事を聞いて、どんな支援を行うべきかを計画作成して、モニタリングしながら、3 か月なら3 か月、1 年なら1 年でケースが終了したと、一体的なものの相談は1 件として明白なんですね。一番相談としても成り立つし、計画相談をすれば、そこにサービスが入るので明確なのですが、「なんとなく、悩みがある」「今晚、自分は大変なんだ」という相談を受けて、これも1 件に入っているのですが、それを積み上げていくのもよくわからなくなってしまうところがある。少しずつ整理していけるとよいと思います。それでは、よろしいでしょうか。これについてはここまでということで、次は「令和5 年度基幹相談 相談支援連絡会スケジュール」でしょうか。よろしくお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 「令和5 年度基幹相談 相談支援連絡会スケジュール」です。

これは先ほど来の議論につながるものでありますが、千代田区の基幹相談として、地域の相談支援事業所との連絡会、事例検討会を基幹相談の役割としてこれまで MOFCA・えみふるそれぞれに任せていましたが、やはり千代田区の中で連携をとって計画的に進めていくべきではないかということで、今年度の年間の予定を出させていただきました。こちらについては、えみふるの的場さんから説明をお願いいたします。

○的場委員 資料3 になります。計画相談は、千代田区には障害者を対象にした事業所が6 事業所あります。障害児を含めると7 事業所となります。実際、計画相談はほぼえみふるで受けているのが現状です。計画相談事業所は利用者の方が選択できますので、実際に他の事業所がどれだけ稼働して件数を抱えているのか。どれだけ空きがあるのかは把握できていません。今年度は一度、そういった区内の相談支援事業所を集めて、実際に今抱えている件数や相談員の人数、どれだけ余裕があるのかなどの確認をしたいと思っています。他区に転居する方の相談支援を、他区の事業所をお願いする時によく言われるのが、「もうケースがいっぱいで、受けられません」という話です。えみふるは、新規で来たケースは断らずに受け入れています。えみふるも限界が近づいてきていますので、増やすとなると人を増やすしかなくなる状況になっています。そのようなところで、面的に「千代田区の計画相談のケ

ースをどのようにしていくのか」ということを共通認識としてもつために、今年度このようなかたちで進めさせていただきたいと思っています。

連絡会としては年5回を予定しています。その間にコアメンバーのMOFCAとえみふるでその都度振り返りと次回どうするか相談をさせていただき、またそれを次の連絡会にもっていきます。あとは人材育成の勉強会や事例検討もしたいと考えております。前回、委員の方から事例検討に参加したいというご意見を頂戴していましたので、事例検討会をさせていただく際にはお声掛けしたいと思っていますので、もしご都合よろしければご参加いただければと思います。ただ、ご参加いただかなくても、相談支援部会にもご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○大塚部会長 ありがとうございます。基幹相談の役目ということで、千代田区の他の相談支援事業所も含めて実態を把握すれば、区とも相談して、色々なことが進展するのではないかと思います。課題をできればこちらにも報告していただければ、協議できると思いますので、よろしくお願いいたします。1つ、疑問なのですが、子どもの相談はどうなっているのでしょうか。

○平澤発達支援係長 区の「さくらキッズ」で障害児の相談支援は行っています。ただ、計画相談の人員が少ないので、民間の事業所で障害児の指定を取っている所があるので、先ほどの連絡会をとおして私どもも情報提供いただけると、利用者に勧めやすいと考えています。

○大塚部会長 障害児の福祉計画もつくらなければならないので、障害児の相談の課題などについてもここで行う必要がありますよね。医療的ケア児のことが出てきますから、それもどこかで参加させたらいいと思います。

○平澤発達支援係長 ちょうど今日小坂部係長からお話をいただいています、委員会形式なので皆さんの承諾がいると思うのですが、さくらキッズのはばたきプランの相談員をこの会議に加えていただくことも考えております。

○大塚部会長 はい、うまく進めていただければと思います。それでは、議題(2)「精神障害者の地域包括ケアシステムの構築」について、事務局より説明をお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 「精神障害者の地域包括ケアシステムの構築」に関しまして、今年度より相談支援部会で協議していくかたちになっております。これに

についてはすでに保健所で連絡会を進めていますので、その報告も含めて、ご説明をしていただければと思います。

○後藤幹事 健康推進課長の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。小坂部係長がお話くださったように、昨年度第3回障害者支援協議会で、精神障害者の地域包括ケアシステムについて今年度から進めさせていただくことをご説明申し上げました。本日は、これまでの経緯と今年度4月から始めている検討状況、今後の予定や方向性についてご報告申し上げたいと思います。

○林田保健相談係長 千代田保健所の保健師、林田と申します。ご説明させていただきます。これまでの経緯ですが、今お話があったとおり、昨年度第3回障害者支援協議会で相談支援部会が中心となりながら、精神障害者の地域包括ケアシステムの構築について協議を行っていくこととなりました。それを受けまして、今年の4月から保健所では、都立精神保健福祉センターや千代田区を担当してくださっている地域移行促進事業をしている事業所の方と一緒に検討を始めております。その中で、このシステム構築のためにはもう少し関わっている人たちの協力を得て、話し合ってからこの相談支援部会にもってきたほうがいいだろうということになりまして、相談支援連絡会を保健所で開催して検討を始めております。

これまでに5月10日、5月17日と2回検討を行いました。メンバーは都立精神保健福祉センターの職員、地域移行促進事業担当事業者の職員、相談支援センターくらふとの相談員、またえみふる、MOFCA、社会福祉協議会、NPO法人ホープの永田さん、地域の医療に携わっている訪問看護ステーションの看護師、障害者福祉課の小坂部総合相談担当係長、健康推進課の保健師というかたちで話し合いを進めております。

現在の進行状況ですが、「千代田区で安心して暮らしていける」ことを大きな目標に掲げながら、今現在、「障害のある方がどのようにお住まいなのか」「どのような支援を使っているのか」「長く入院された方が戻ってきた時に、どんな支援があったら安心して暮らしていけるのだろう」ということをメンバーで洗い出しをしていく作業をしています。特に、「当事者の方や家族の方たちがどんな資源があれば、安心して相談を受けられるのか」という

ことを念頭に置きながら考えております。ポスト・イットを使いながら、ありとあらゆるものを出していくような、見える化する作業をしております。その中で地域診断として強み・弱みなどの特徴をまとめていきます。精神障害者の地域包括ケアシステムの構築のためには、「どのような組織が含まれたらいいのか。どんな関係者が必要なのか」など協議しております。今はこの見える化作業の中から出てきた地域課題を羅列している状況で、次回それを発表し、どのような事業が足りないのか、見えてくるといいと思っています。

今後の課題としては、「相談の体制がどのようにとられたらいいのか」について、話し合いをもちたいと考えております。精神障害者の地域包括ケアシステムの構築と言っておりますが、難病の方や他の障害の方も使えるサービスがどういうものなのかについても念頭に置いて考えております。最後ですが、精神障害者の地域包括ケアシステムの構築がスタートしました。ぜひ皆様のご意見を伺いながら、いいものをつくっていけるように、一緒に考えていけたらと思っています。現状、こういうかたちで進んでおりますので、また次回、何か発表できるペーパーのものを出していきたいと思っています。

○大塚部会長 ありがとうございます。今のところ、向こうで協議していて、課題の洗い出しなどされているので素材はありませんが、今何かありましたら、お願いします。

○大山委員 今のお話を聞いて少しびっくりしたのですが、私どもの「さくらんぼの会」は元々保健所から出てきています。それで食事をつくり始めました。それができなくなってきた、社会福祉協議会からお金をいただいて、年3回、当事者をお呼びして行っています。今のお話は初めて聞いたので、帰ったら、会長にも話してみますが、もう少し情報をいただけたらと残念に思いました。

○大塚部会長 行政が家族会などの団体とどのように一緒に行っていくかという話だと思います。今までの団体の活動もあるでしょうし、今後行政が地域包括ケアシステムをどのようにつくるかという時、連携していかなければならない

ので、色々な意見を出しながら行っていく必要があるということに尽きると思いますが、何か保健所で見解はありますか。

○林田保健相談係長 先日、家族会の総会の前の話し合いに参加させていただきまして、「精神障害者の地域包括ケアシステムの話し合いを始めています」というお話をさせていただきました。あの時は、総会についての話を中心になってしまったので、今後もまた話し合いを一緒に行っていきたいと思っております。忌憚のないご意見をいただけたらと思います。

○大山委員 今度、28日に集まります。

○林田保健相談係長 ぜひよろしく願いいたします。一緒に進めていきたいと思っております。

○大塚部会長 家族会とも連携しながら、進めていただきたいと思います。本格的には、これから課題などをまとめたら、こちらで発表してもらって、少し議論していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、最後に、議題(3)「相談支援事例(2件)の紹介・意見交換」をお願いいたします。

○小坂部総合相談担当係長 事例の紹介をしたいと思います。資料4-1に2件、ケースをあげております。今回事例検討する上で、皆様にご了解いただきたいのは、事例をあげると個人の特定につながる部分もありますので、今回の事例内容については、口外しないようにということと、資料も回収させていただきますので、会議終了時に退出の際は、机に置いておいていただければと思います。えみふるとMOFCAそれぞれにケースを出していただいております。まずは、えみふるからお願いいたします。

～～事例紹介～～

○大塚部会長 それでは、本日の議題は終了しました。「3 令和5年度障害者支援協議会スケジュール」について、よろしくお願いします。

○小坂部総合相談担当係長 資料5「令和5年度千代田区障害者支援協議会の開催スケジュール(予定)」をご覧ください。先ほどより、話が出ておりますが、今年度は、千代田区障害者福祉プランの改定に向けた検討を行う年です。計画部会を行うことと併せて、差別解消支援部会も行います。相談支援部会について

も精神障害者の地域包括ケアシステムの構築という新たな課題が出ております。その辺りから全体として例年より部会の回数が多くなっています。また、開催日についても計画策定の進行に沿って行うというかたちで設定しています。部会を兼務されている委員の方も多いかと思いますが、ぜひともご協力をお願いできればと思っております。

次第の「4 その他連絡事項」にあります。次回の相談支援部会は6月中旬に開催したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。また、来週26日（金）には18時30分より第1回障害者支援協議会を開催しますので、ご出席をよろしくお願いいたします。

○大塚部会長 ありがとうございました。それでは、本日の相談支援部会全体をとおして、最後に何かご意見等ありましたら、お願いします。よろしいですか。今日は、事例検討がありました。リアリティのあるものにすると、色々な議論が出たり、検討課題が出てきたり、話が弾むと思いますので、時々事例をとおして協議をしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。司会進行が悪くて、時間が延びてしまいましたが、充実した延びだと思いますので自分では納得しているのですけれど、今日はご協力ありがとうございました。